謝辞

本研究を完成するまで、途方もなく多くの方々のお世話になった。

筑波大学心身障害学系吉野公喜教授からは、1991年に筑波大学修士課程教育研究科に入学したときから８年にわたるご指導を賜る中で、論文テーマの変更等心配をかけ続けてきた私に対して、常にあたたかい励ましをいただいた。何とお礼申し上げればよいのか、ふさわしいことばも見つからない。

中村満紀男教授は、「ここは面白いが、あとはねえ、、」とおっしゃりながらも論文の草稿段階で目を通して、細やかなアドバイスを下さった。深くお礼申し上げます。

柳本雄次教授からは、提出した論文に関して具体的で重要なご指摘をいただいた。斉藤佐和教授、鷲尾純一助教授、鄭仁豪先生からは、聴覚障害児の早期教育の評価に関する事柄についてご指導をいただいた。中西靖子元教授からは、この研究テーマを進めていくための大きな励ましをいただいた。また、草薙進郎元教授、上野益雄元教授、中野善達元教授、津曲裕次元教授からは、励ましや情報提供、重要なご指摘をいただいた。深く感謝しお礼申し上げます。

ペラデニヤ大学教育学部セートゥンガ・プラサードさん（元教育学系）とはスリ・ランカの教育・福祉を研究する仲間として意見交換をし、論文草稿に対しても多くの指摘をいただいた。いつでもスリ・ランカのことを聞ける、話せるという、得難い環境をつくってくれたことに感謝申し上げます。

ペラデニヤ大学地理学部のDr. C. M. Madduma Bandara教授からは、筑波大学、国連大学に滞在中にたくさんの討論の時間を割いていただき、論文の構成上重要な指摘をいただいた。また、スリ・ランカで調査を実施するときには、質問紙作成のための具体的なアドバイスをいただいた。

地域研究科のギータンジャリ・ガヤトリさん（ケラニヤ大学）には、ビデオの発話分析を手伝っていただいた。

大勢の方々に貴重な時間を割いてお話しをうかがわせていただいたが、半本操子先生、渡辺そのみさん（ノーサイド甲府教室）からはさらに、多くの貴重な資料を提供していただいた。

故大嶋功元日本聾話学校長は、私が現地へ調査に行くときにスリ・ランカの聾学校関係者に推薦状を書いて下さり、「ご奉仕、立派なことです。成果を待っています」とあたたかく背中を押してくださった。ご存命中に論文をもってお伺いできなかったのが残念でならない。

加藤靖佳先生、澤隆史さん（東京学芸大学）を始め、吉野研究室の皆さんに

は、困ったときにいつも援助の手をさしのべてもらった。その他、斉藤友介さん（大東文化大学）、高宮以都子さん、合田素子さん（以上、心身障害学研究科）にお世話になった。

Ms. I. Lopez (Göteborg大学)からは、快く資料を送っていただいた。また、Dr. D. M. Kalabula (Zambia大学)とDr. R. Brouillette (CBM)から提供していただいた博士論文は、先行研究の少ない発展途上国の障害児教育を研究する上で、とりわけ研究の初期の段階において重要な指針となった。

何よりも、本研究はスリ・ランカで多くの方々の助けを得ることなしには完成し得なかった。最初に、リサーチ・アシスタントをつとめて下さった、Ms. K. Ranaweera, Ms. L. Karunanayake, Ms. B. Gamaethige, Ms. S. Magamamudaliの４人に深く感謝申し上げます。

読話テストを作成したSr. J. Jayasinghe、学力テストを作成したMr. D. M. S. K. Munasingheに深く感謝いたします。

また、次の方々にはご助力、ご配慮をいただいた。

Mr. W. V. Singhanatha,Mr. W. M. K. Weerakoon, Ms. N. Deldeniya,
Mr. W. W. J. Perera, Ms. L. Gunasinghe, Mr. M. Perera
Mr. K. G. Cooray, Ms. M. Wijeratne, Ms. T. H. K. Fernando,
Ms. D. K. D. Rathnawathi, Mr. K. Piyasena, Mr. D. L. R. Subasinghe,
Ms. S. de S. Rajapakse, Mr. J. Pemadasa, Mr. S. Abayakoon,
Sr. G. Nalawatta, Mr. L. Perera, Mr. T. D. T. L. Dhanapala,
Ms. A. Alwis, Ms. R. Fernando, Mr. H. Sethunga,
Dr. L. Gunathilaka

スリ・ランカ滞在中には、JICA専門家池上夫妻にはさまざまなご配慮をいただいた。また、生活面ではMrs. D. M. Jayasingheに格別にお世話になった。

以上の方々そして、ここに記すことができなかった多くの方々に、深く感謝申し上げます。

最後になるが、両親は、私が退職し大学院に行くとき、スリ・ランカに行くとき、博士論文に取り組むとき、いつ如何なるときにも変わらず応援してくれた。さらに、父、耕作には、論文の最終稿に目を通してもらった。この場を借りて感謝の意を伝えたい。

1999年１月20日